

これまでのノウハウをもとに 先進性・独自性のある教育プログラムを提供する

Honda は二輪・四輪のシミュレーターの開発で培った独自の技術を活かして、安全運転教育の効果を高めるためのソフトウェアを開発しています。また、研究団体などと連携して、時代のニーズに合った教育プログラムづくりにも取り組んでいます。これまでに蓄積したノウハウをもとに、安全運転教育の新たな価値を提供していきたいと考えています。



シミュレーター技術を活用した新たなソフト開発

脳梗塞など脳血管障害となった方々は全国で約 130 万人とされています。そして、こうした方々の中には社会復帰後に、クルマの運転を希望されている方がたくさんいます。しかし、クルマの運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在しないため、担当の医師や作業療法士の方々がその判断に苦慮しています。そこで現在、Honda では、四輪運転者用のドライビングシミュレーターの技術を活用して、リハビリ患者の方の運転可否の判断をサポートするためのシステムの開発にチャレンジしています。

現在、東京都リハビリテーション病院などの協力を得て効果検証中で、担当する医師は「患者様が回復後に運転して問題がないかを客観的に判断するための重要なツールとして期待しています。こうしたシステムがあることで、患者様のリハビリに取り組むモチベーション向上にもつながります」と評価しています。このシステムによって、医師や作業療法士へ一定の判断基準を提供し、「もう一度クルマを運転したい」と希望する患者の方を支援していきたいと考えています。



リハビリ患者の方の運転可否判断をサポートするためのシステムを東京都リハビリテーション病院などで検証



効果的な自転車教育プログラムの開発に協力

公益財団法人 国際交通安全学会の研究プロジェクトの1つである「子どもから高齢者までの自転車利用者の心理行動特性を踏まえた安全対策の研究」に、Honda は協力しています。このプロジェクトでは、まず中学校 2 校の協力を得て、この年代に固有の心理特性・行動特性などを明らかにし、「平成 22 年度国際交通安全学会研究調査報告会」で発表、自転車総合対策の必要性を提唱しました。この結果を踏まえながら、効果的な自転車教育プログラムの開発を進め、教育の現場に導入していくことをめざしています。



公益財団法人 国際交通安全学会の研究プロジェクトの一環として、三重県鈴鹿市内の中学校に協力を得て生徒の行動調査などを実施した